

## 令和4年度群馬県立高崎東高等学校3学期終業式 式辞

皆さん、こんにちは。いよいよ、令和四年度が本日をもって事実上終了します。この一年を振り返る日として、また新学期を迎える準備を始める日として、この機会を活用してください。

さてこの一年、儀式的行事の日に式辞や講話として色々な話をしてきました。私自身の振り返りという意味も込め、簡単にまとめてみたいと思います。

1学期の始業式では、学校の儀式的行事の意義について語り、ルーティンを作って家庭学習の習慣を作ってください、という話をしました。1学期終業式はその確認です。もし習慣を確立できなかった場合は、何がいけなかったのかを考える「PDCA サイクル」について話しました。2学期始業式は9月1日の震災記念日に合わせ、草津や阿久津などの地名を考察することで防災意識を持つという話をしました。2学期終業式はクリスマスが農耕社会に広まった理由についての考察を話しました。3学期始業式は丁度100年前の1923年の出来事から、トルコと日本の友好についての話をしました。

それぞれの話について最も大事なことは、この儀式的行事を契機に「何を伝えたいのか」ということです。それを伝えるために、どのような話をすればよいか考えたことです。要するに、家庭学習を習慣化すること、防災意識を持ってもらうこと、過去の伝統や出来事から今学べること、これらを伝えたい場合にどのような話をすればよいか、どのように伝えればよいかを考えたことです。みなさんも相手に大事な事を伝えたい場合、どう話すか、どんな事例をあげて話すか、どれくらいの強弱で話すか、話す速さはどのくらいが適当か、などを考えてください。また聞いた相手がどんな反応を示すのかをある程度予想してみてください。全部一緒には無理としてもどれか一つから始めて、そして徐々に色々な事、影響を考えながら話すことを習慣化していけば、みなさんのコミュニケーション能力は格段に上がり、それが会話だけでなく文章を書くということにもいい影響を及ぼすはずですよ。何度も文章を書いては修正し納得のいく文章に仕上げしていく作業を推敲といいます。「推(すい)」は推薦の推で「おす」と訓読みます。「敲(こう)」は訓で「たたく」と読みます。唐代のある詩人が「僧は推す月下の門」という句を作りますが、「たたく」という表現のありだなと考え、どちらにするか悩みながら歩いていたところ、有名な詩人の行列に突き当たってしまいました。そこで思いきって「門をおす」と「門をたたく」、つまり「推(すい)」と「敲(こう)」のどちらがいいか質問したところ、著名な詩人は「たたく＝こう」の方がいいとアドバイスしました。この故事にちなんで「推敲」という語が生まれたのです。こうしてみなさんに話をしている私も、原稿を書きながら推敲を繰り返し、今こうして話をしています。そして伝わったかどうかを検証し、ダメだった場合はその原因を探り、次回はもっと面白い話になるよう努力します。みなさんも私と一緒に伝わる話、文章のあり方について、今後も精進を続けていきましょう。

ただし人間は感情で動く部分もあります。相手に伝わるかどうかを考えずに自分の話したい事、好きな事を一気に話してしまうこともあります。決して論理的ではないそんな話ですが、聞いた人々が感動することもあります。いつかは明言できませんが、チャンスがあれば私の好きな事、夢中になることを一気にしゃべって皆さんの反応を見てみたいと思っています。

令和5年3月23日

群馬県立高崎東高等学校 校長 関口 俊邦